

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																
鯉淵学園農業栄養専門学校	昭和23年4月1日	島崎弘幸	〒319-0323 茨城県水戸市鯉淵町5965 (電話) 029-259-2811																																
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																
公益財団法人鯉淵学園	昭和23年5月24日	伊勢彦信	〒319-0323 茨城県水戸市鯉淵町5965 (電話) 029-259-2811																																
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																															
農業	専門課程	アグリビジネス科 畜産コース	平成22年文部科学省認定	—																															
学科の目的	基礎的な飼養管理から、先端的な大規模経営についての実習の体験を通じ、家畜人工授精師(牛)、家畜体内受精卵移植師などの現場で重視される資格取得にむけての高度な理論も習得した、畜産経営者や専門技術を生かした農業法人スタッフ、専門技術者を育成する。																																		
認定年月日	令和4年3月25日																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																												
2年	昼間	2655	1110	465	1035	45	0																												
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																														
40人	31人	1人	3人	18人	21人																														
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 試験・レポート・提出物・平常点(受講態度、遅刻)などに 基づき60点以上を単位認定し、100～90点をS、89～80点を A、79～70点をB、69～60点をC、59点以下をD(不合格)と評 価する。																															
長期休み	■学年始: 4月8日 ■夏 季: 8月9日～9月30日 ■冬 季: 12月20日～1月10日 ■学年末: 3月17日		卒業・進級 条件	学期に定める規定科目を履修し、学期末試験もしくは課題 の成績が合格点以上で、学費等の納入を怠っていない者。																															
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任による面談の実施や保護者と連携した指導、スクールカ ウンセラーとの連携により種々の学生への相談・指導を実施 している		課外活動	■課外活動の種類 学生自治組活動・ボランティア活動・学園祭等の実行委員 会等 ■サークル活動: 有																															
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(令和3年度卒業生) 農業後継、農業法人、進学 ■就職指導内容 校内就職セミナー・説明会の他、外部開催される合同説明会 などに積極的参加を促している。担任を中心とした面接対策、 履歴書指導などの他、就職担当との連携した指導を実施して いる ■卒業生数 5 人 ■就職希望者数 5 人 ■就職者数 5 人 ■就職率 100 % ■卒業生に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 ・進学者数: 0人 ・就職・進学などを希望しない 0人 (令和 3 年度卒業生に関する時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農業技術検定3級</td> <td>③</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>家畜人工授精師</td> <td>①</td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>家畜体内受精卵移植師(牛)</td> <td>①</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>大型特殊運転免許</td> <td>①</td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>大型車両系運転業務</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>農業簿記検定3級</td> <td>③</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③の いずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得す るもの ③その他(民間検定等)				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	農業技術検定3級	③	0人	0人	家畜人工授精師	①	4人	4人	家畜体内受精卵移植師(牛)	①	3人	3人	大型特殊運転免許	①	4人	4人	大型車両系運転業務	③	3人	3人	農業簿記検定3級	③	0人	0人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																																
農業技術検定3級	③	0人	0人																																
家畜人工授精師	①	4人	4人																																
家畜体内受精卵移植師(牛)	①	3人	3人																																
大型特殊運転免許	①	4人	4人																																
大型車両系運転業務	③	3人	3人																																
農業簿記検定3級	③	0人	0人																																
中途退学 の現状	■中途退学者 0名 ■中退率 0% ■中途退学の主な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による個別指導の他、スクールカウンセラーによるカウンセリングの実施、学費の分割納入など																																		
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 特待生制度(授業料半額免除)、鯉淵学園奨学金制度(無利子、月額2万円、3万円、5万円) ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																																		
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																																		
当該学科の ホームページ URL	https://www.koibuchi.ac.jp/agribusiness/stockbreeding/																																		

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄とさせていただきます

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」とは、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学部、歯学部、獣医学部、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者を含め、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 本校が実践的かつ専門的な職業教育を実施するため、企業等との連携を通じて最新の知識・技術・技能について必要な情報の把握や分析を行い、カリキュラムの改善や工夫、教育課程の編成に定期的に生かしていく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
 学則第36条 本校は授業内容及び方法の改善を図るために教育課程編成委員会を設ける。
 教育課程編成委員会は学園長を委員長とし、学園長の指名する教職員の他、業界団体の役職員、専攻分野に関する企業等の役職員から選出し、鯉淵学園農業栄養専門学校が実践的かつ専門的な職業教育を実施するための教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫など)に活かすため、定期的に会議を設ける。会議での決議事項は、教授会や運営会議において検討し、次年度以降の教育課程の編成及びカリキュラム内容の改善や工夫に活かす。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿 令和3年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
山田 浩太	アルファイノベーション 株式会社 代表	令和元年10月1日～ 令和3年3月31日(2年)	①
小池 航	株式会社 環境管理センター 筑西試験農場 場長	令和元年10月1日～ 令和3年3月31日(2年)	①
李 強	有限会社 瑞穂農場 取締役	令和元年10月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
辻川 裕昭	イセ食品 株式会社 石岡PK工場 工場長	令和元年10月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
藤井 誠一	有限会社 つくばファーム 農場長	令和元年10月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
島崎弘幸	鯉淵学園農業栄養専門学校 学園長	令和元年10月1日～ 令和3年3月31日(2年)	
長谷川量平	鯉淵学園農業栄養専門学校 副学園長	令和元年10月1日～ 令和3年3月31日(2年)	
高田 良三	鯉淵学園農業栄養専門学校 アグリビジネス科 科長	令和元年10月1日～ 令和3年3月31日(2年)	
斎藤 亮一	鯉淵学園農業栄養専門学校 学務部 学務課長	令和元年10月1日～ 令和3年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
 (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)
 ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 ②学会や学術機関等の有識者
 ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
 (年間の開催数及び開催時期)
 年2回 (9月、2月)
 (開催日時(実績))
 第1回 令和2年7月27日 10:00～12:00
 第2回 令和3年2月 1日 10:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
 企業連携を教育に組み込んでいく際、企業と教育のスピード感に差が大きく、どのように、何を連携していくのかが、わかりにくいと指摘を受けた。今後、企業側にも利点がある教育をデザインしていくためにも、IoT、バイオスティミュラントなど先進的な研究にもかかわらずいき、どの科目にどのように連携を進め、内容を組み込むべきか議論を進める。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 農産物生産や加工に関わる農業者が果たすべき社会的役割に関する基本となる能力を養うため、企業等との連携を通じて産業界が必要とする知識・技能及び社会人としてのマナーを養う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
 農業や食料教育に熱心な企業に実習・実演・演習・講義を依頼し、同業・異業種から見た農業教育の問題点改善や、これからの農業について新規検討を学生と共に行う。また、卒業後希望する職場(農業後継 法人就農 その他)に就職し活躍するために、職業理解及び社会人としての心構えを修得する。

(3) 具体的な連携の例		
科目名	科目概要	連携企業等
農業生産・機械実習1	専門科目で修得する知識を発展させる実習科目でもある。農業生産の過程における各種作業の体験を通じて、農業生産の仕組み・技術についての基礎修得に必要な実習を行う。別に挙げる主たるテーマ他を天候・時期などにあわせ、水田、野菜(施設、露地、有機、企業)、果樹の計6部門にて平均的に体験実習する。	株式会社 環境管理センター 株式会社 NTTドコモ 有限会社 瑞穂農場
農業生産・機械実習2	1年次に引き続き、専門科目で修得する知識を発展させる実習科目でもある。主たるテーマ他を天候・時期などにあわせ、水田、野菜(施設、露地、有機、企業)、果樹の計6部門にて平均的に体験実習することに変わりはないが、農業法人等への就職・就農に足る即戦力、協働力を養う。	株式会社 環境管理センター 株式会社 NTTドコモ 有限会社 瑞穂農場

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

実践的かつ専門的な職業教育を実施するため、職員研修に関する内規に基づき、教職員の能力開発に対して専攻分野における実務に関する知識・技術並びに授業及び学生に対する指導力等の修得・向上を目的として組織的な研修を受講させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「酪農技術者連盟 技術研修会」(連携企業等：茨城県酪農技術者連盟)

期間：令和2年7月8日(水) 対象：家畜人工授精業務担当者

内容：家畜改良増殖法改定にともなう業務管理。茨城県農林水産部畜産振興課担当より家畜の改良増殖を継続的・効果的に推進する観点から家畜人工授精用精液・受精卵の適正な生産・流通・利用について説明を受けた。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「校内研修会」

期間：令和2年9月24日(金) 対象：全教職員

内容：高等教育におけるアクティブラーニング他授業の在り方について、茨城大学教育学部 准教授 大西 有 先生より解説を受けた。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「受精卵移植指導者研修会」(連携企業等：(独)家畜改良センター)

期間：令和3年度 対象：家畜体内受精移植業務担当者

内容：近年の受精卵移植技術の発展に対応し、都道府県、農業団体等の受精卵移植技術指導者を対象に、受精卵移植技術に関する最新の技術を会得し受精卵移植技術業務成果の向上を図る。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「校内研修会」

期間：令和3年9月24日(金) 対象：全教職員

内容：教育力、指導力の向上について、茨城大学教育学部 准教授 大西 有 先生より授業の組み立て方についてグループワーク方式を交えて解説を受け、今後の農業者教育に取り入れる。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己点検・自己評価の結果に対し、学校評価ガイドラインに沿って外部評価を実施し、審議された内容から改善提案を行い、次年度へ反映させる。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標(将来構想、教育の特色、業界ニーズ)
(2) 学校運営	学校運営(運営方針、事業計画、意思決定システム)
(3) 教育活動	教育活動(教育目標、カリキュラムの体系化、評価基準の明確化)
(4) 学修成果	学修成果(就職率、資格取得率、退学率、卒業生の評価)
(5) 学生支援	学生支援(就職指導体制、経済的支援体制、保護者との連携)
(6) 教育環境	教育環境(施設設備の整備、インターンシップ等の教育体制)
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集(学生募集活動の適正化、納付金の妥当性)
(8) 財務	財務(財務基盤の安定性、予算・収支計画の有効性、会計監査の適正化)
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守(法令・設置基準等の遵守性、自己評価の実施)
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献(社会貢献の実態、学生ボランティアの支援)
(11) 国際交流	国際交流(学習・生活指導体制、在籍管理の適正化)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校評価委員会にて評価を受けた項目の中で、改善が求められるものについては速やかにその対処方法について協議し、授業評価アンケート結果とともに次年度の授業計画に反映させ、教育内容の改善や学校運営の健全化に努める。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
大西 有	茨城大学教育学部 准教授	令和元年10月1日～令和3年3月31日(2年)	教育関係者
入江 三弥子	公益財団法人 茨城県栄養士会会長	令和元年10月1日～令和3年3月31日(2年)	関係機関役員
安達 秀樹	社会福祉法人 愛の会 笠間ひだまり館 館長	令和元年10月1日～令和3年3月31日(2年)	業界関係者
西村 勝夫	鯉淵学園同窓会 会長	令和元年10月1日～令和3年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.koibuchi.ac.jp/disclosure/files/18.pdf>

公表時期: 令和3年6月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の業界関係者、学生、保護者等に対し、ホームページを通じて本校の教育活動や学校運営の状況に関する情報を積極的に発信し、企業等との連携による教育活動の充実や産業界等のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善につなげる。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、教育目標(3ポリシー、教育方針)
(2) 各学科等の教育	各学科等の教育(カリキュラム、目指す資格、進路)
(3) 教職員	教職員(教員担当科目、教職員数、教員の実績等)
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育(就職支援、実習等への取り組み状況)
(5) 様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境(学校行事、施設設備、地域・企業連携)
(6) 学生の生活支援	学生の生活支援(学生自治会、保健衛生指導、カウンセリング)
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援(奨学金)(特別待遇学生)
(8) 学校の財務	学校の財務(収支計算書、貸借対照表)
(9) 学校評価	学校評価(自己評価、学校関係者評価)
(10) 国際連携の状況	国際研修
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.koibuchi.ac.jp/disclosure/>, <https://www.koibuchi.ac.jp/nominkyō/>

授業科目等の概要

(専門課程アグリビジネス科畜産コース) 令和3年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			実用国語	就職活動を有利に進められるようにするために、現代文の読解力、作文の向上を図る。	1 年前期	30	2	○			○			○	
2	○			情報処理基礎	パソコンの基本操作について学習。レポート作成に必要なワープロ（作文）、表・グラフなどのデータ集計、プレゼン用のスライド作成のスキルを習得する。	1 年前期	30	1		○		○				○
3	○			社会活動1	学内懇談会、セミナー、校内外の美化活動、学校行事（農業祭、三者会、学園祭）、学生自治会などの様々な活動に積極的に参加し、社会生活を送るために必要な人格と教養を培うこと、協同の精神を育むことを目的とする。	1 年前後期	60	2				○			○	
4	○			社会活動2	上級生としての立場から、学内懇談会、セミナー、校内外の美化活動、学校行事（農業祭、三者会、学園祭）、学生自治会などの様々な活動へ積極的に参加することにより、社会生活を送るために必要な人格の形成を目的とする。	2 年前後期	60	2				○			○	
5	○			進路	現在の自分の実力・能力を知り、どの業態にどんなやり方でアプローチするべきかを知ることは重要なことである。本講義は、目的の就職先にたどり着くために必要なスキル習得を目的とする。	1 年後期	30	1				○				○
6	○			生物	更なる学習の基礎とするため、生物についての基礎的事項を理解・習得する。	1 年前期	30	2	○			○			○	
7	○			実用数学	農業経営で必要な肥料計算、農薬希釈などの数学的知識を習得する。	1 年前期	30	2	○			○				○
8	○			化学	化学の知識を農業に活かすため、自然観や科学的思考法、基礎概念について学習する。	1 年前期	30	2	○			○				○
9	○			入門ゼミナール	教員との少人数ディスカッションなどを通じ、後期からのプロジェクト学習、就職活動につなげる。	1 年前期	30	2	○			○			○	
10	○			保健体育	けがや病気のリスクを減らすための、正しい姿勢や体の動かし方を身に付けさせる。健康について学ぶことで、安心・安全な心掛けや、健康のための体力や気力の保持・増進に努める意識を高める。簡単な運動によってストレスが緩和されることや、他者との協力によって得られる喜び等を実感させる。スポーツを通して、充実した学園生活を過ごす所属意識を高める。	1 年前期	30	2	○			○			○	

19	○		資源循環	資源消費型から循環型社会への転換を図り環境を保全する観点から、農業や生活関連の廃棄物、未利用物として存在する有機物資源の循環について、その現状と課題を概括的および個々の廃棄物毎に講述する。さらに、資源循環に伴う環境汚染の防止と安全・安心についても考察し、地球規模での循環についても触れる。	1年後期	30	2	○			○								
20	○		環境保全型農業	21世紀は環境の時代といわれ「機械と火」の時代から「いのちと水」の時代へと移行している。農業はもとも物質循環システムを基本として成立し、環境と最も調和した産業である。ここでは地球環境、地域環境と農業とのかかわりを学び、さらに今まで行われてきた多肥集約型農業と低投入・環境保全型農業の基本的な違いを明らかにし、今後あるべき農業生態系の姿を探る。	2年後期	30	2	○			○								
21	○	○	新規就農	農業は第一次産業であり、その意味で「農業をやってみたい」と思うのは漠然とした「思い」なのかもしれない。「ITで独立したい」や「レストランを経営したい」などの志望を持つように、農業もさまざまな分野があり「酪農をやりたい」であったり「ミニトマトを栽培したい」など、どんな農業をやるか、どんな農業で企業するか、これが最初の課題であり段階的に就農までの道すじを理解する。	1年後期	30	2	○			○								
22	○		フードシステム	農林水産物の一次生産から消費に至るまでには、生産、調整・処理、製造・加工、流通などの多くの段階があり、それらは多様な主体により構成されている。農業生産のさらに川上には農業資材産業も存在する。それら諸主体の間には、様々な態様の結合関係または取引関係で結ばれた連鎖の構造がみられる。本講義は、これらの多段階にわたる多様な主体の連鎖をフードシステム（ないしアグロフードシステム）としてとらえ、その連鎖の構造、各段階の競争の構造と、それらに影響を及ぼす要因を把握し、今日的な課題を検討することを目的とする。	2年前期	30	2	○			○								
23	○		農業機械	身近な農業機械への理解を深めることで、より安全な農作業の在り方を習得し、各種作業免許取得意欲を高める。	1年前期	30	2	○			○								
24	○		農業機械実習	通常の実習では学びきれない機械の構造や構造、安全管理などについて、時に外部講師を招聘することで学び、作業系免許と呼ばれる各種の資格取得の一助とする。	2年前後期	45	1			○	○								
25	○		園芸基礎	農業を総合的に理解するために、基礎から高度な内容まで幅広く学ぶことで、自らの将来像を考えられるようになる。	1年前期	30	2	○			○								
26	○		土壌	土壌は作物を栽培する培地としての機能と環境を保全する機能を持ち合わせている。土壌の生成から農業の生産性にかかわる様々な機能・働きを学び、土づくりの重要性を理解する。	1年前期	30	2	○			○								
27	○		肥料	化学肥料は作物生産において欠かすことができない生産資材である。しかし、近年化学肥料の多量施用が生産環境並びに地域・地球環境に及ぼす影響の大きいことが指摘されている。有機質肥料を含めて、肥料の種類別に性質、分解、吸収形態、施肥法を学習し、肥料の環境保全型農業における合理的な利用法を習得する。	1年後期	30	2	○			○								
28	○		畜産	畜産は動物性タンパク質の供給が主目的である。そこで、畜産の全体像を理解することを目的として、遺伝育種、繁殖、栄養、飼料、生理、家畜環境等の専門科目の概略が説明できるようにすることをねらいとする。	1年前期	30	2	○			○				○				

29	○		食品衛生	食品衛生の考え方を理解し、飲食物による健康障害の防止について正しい知識を得ることを目的とする。食品衛生の概念を説明した後、微生物が原因となる食中毒の原因食品・汚染経路及び予防方法について解説する。	1 年 前 期	30	2	○					○				○	
30	○		食農教育概論	食べ物が育てられ、食卓に届くまでのプロセスを理解すると共に、生きものを食べ物とする自然の摂理や食の安全安心を確保するためのシステムなどについて理解を深める。	2 年 前 期	30	2	○					○				○	
31	○		農畜産物加工実習	ホテルやレストランなどの施設等に見られる、最新の自動調理器具（SCC・VCC・ブラストチラー・真空調理機）を使った、特別な訓練による知識や技術がなくとも、大量に自動で加工や調理体験のできる実習である。農・畜産物をおいしく、安全な加工食品に仕上げる加工法。及び、衛生的な取り扱い方を学び、6次産業化に向けた加工による物質変化や原価計算、利益の出し方等を理解する。また、実習を通じて安全な食品材料を消費者に提供する知識と技術を学ぶ。	2 年 後 期	45	1						○	○			○	
32	○		農業協同組合論	周知のとおり、現在、市場原理に限りなく整合性をもったグローバリゼーションが日本全土に浸透している。他方、「少子・高齢化」の趨勢も断続的に続いており、このままでいくと、近い将来、現行の経済社会システムが破綻する可能性が高い。まさにいま、経済社会システムを抜本的に再編する時期なのである。この再編にあたり、はじめとす協同組合が果たす役割は非常に大きい、と講義者は考えている。このような問題意識のもと、本講義では、農業協同組合（農協）を農協の協同組合としての理念、歴史、日本の農協の事業・組織・経営を理解し、農協が日本の新しい経済社会システムの構築に寄与する可能性を考察することを主たる目的としている。	2 年 前 期	30	2	○					○				○	
33	○		飼料・飼料作物	代表的な飼料作物の種類と栽培方法、利用方法について理解する。また、各種飼料の栄養的特長を理解しその給与方法について学習する。	2 年 後 期	30	2	○					○				○	
34	○		家畜衛生	家畜に関する感染症・病原体・生産病・関連法規など幅広く多岐にわたる基礎知識だけでなく、家畜衛生に関する最新情報をどのようにして入手するのかなど、実践的な手法や思考力を身に着けることを目的とする。	1 年 後 期	30	2	○					○				○	
35	○		家畜飼養	家畜には乳牛、肉牛、豚、肉用鶏、採卵鶏が主に含まれる。それぞれの畜種において、その育種繁殖面での特徴、飼料内容、取り巻く環境等、実践的な飼養方法において様々な違いがある。そこで、これらの違いを学んで理解し、説明できるようにする。	1 年 後 期	30	2	○					○				○	
36	○		繁殖生理	本学の畜産コースでは、2年間の履修期間内に家畜人工授精師（牛）と家畜体内受精卵移植師（牛）の二つの資格が所得できる。そのため、履修すべき科目が家畜改良増殖法で定められている。繁殖生理は、履修すべき学科科目時間数66時間のうちの25時間を占める科目である。以上を踏まえて、両資格取得に必須の牛の繁殖学と生殖器の解剖に関する基礎知識を中心に学習を進め、両資格を実地に活かす技術と知恵を修得することを目的とする。	1 年 後 期	30	2	○					○				○	
37	○		解剖生理	基本的な身体の構造や機能について理解するだけでなく、器官同士がどのような相互関係にあるかを結びつけることで思考力を養うことを目的とする。	1 年 後 期	30	2	○					○					○

38	○		家畜栄養	家畜の栄養生理は、家畜種により大きな違いがある。また、同種でも乳牛や肉牛のように生産利用の目的が異なる品種において、あるいは、成長の段階においても、栄養生理には違いがある。この授業では、家畜の栄養生理の仕組みの基本的な知識を習得し、さらに家畜により異なる特異的な栄養生理の仕組みについて理解し考える力を養成する。	2 年 前 期	30	2	○					○				○	
39	○		家畜発生	家畜を中心に動物における発生がどのようなメカニズムで行われているかについて、具体的な例を引用し、講述する。本講義を通して、基礎的な生物学から最新トピックスまでを幅広く説明し、最新科学の知見および技術に対する興味をきっかけになることを目指す。	2 年 前 期	30	2	○					○					○
40	○		細胞工学	近年めざましい発展を遂げている細胞の工学的操作の概要と今後の発展および家畜繁殖に関わる技術発達に関する基礎的な知識を得ることにより、家畜人工授精技術や家畜受精卵移植技術の習得を目指す。	2 年 後 期	30	2	○					○					○
41	○		家畜育種	家畜育種は、動物遺伝学の知識を基礎として、家畜の生産物（乳、肉、卵などの経済形質）をどのような方法を用いて改良していくのかを学ぶ科目であり、改良を進めるための理論と方法を理解することが重要である。そのため、家畜の品種と家畜改良の歴史、遺伝的改良の理論と方法を解説する。	2 年 前 期	30	2	○					○					○
42	○		家畜人工授精論	本学の畜産コースでは、2年間の履修期間内に家畜人工授精師（牛）と家畜体内受精卵移植師（牛）の二つの資格が所得できる。そのため、履修すべき科目が家畜改良増殖法で定められている。家畜人工授精論は、履修すべき学科科目時間数66時間のうちの21時間を占める科目である。1年次に履修した繁殖生理の復習も含め、両資格取得に必須の人工授精と種付け理論に関する基礎知識を中心に学習を進め、両資格を実地に活かす技術と知恵を修得することを目的とする。	2 年 前 期	30	2	○					○					○
43	○		畜産実験	畜産学に関して講義された内容の一部を実験によって再確認するとともに、家畜を飼養する上で必要な特殊技術の習得や家畜人工授精師ならびに家畜受精卵移植師免許取得に必要な実技科目について授業する。	2 年 前 期	45	1						○	○				○
44	○		受精卵移植実習	獣医師の資格を持ち、多くの畜産現場での診療、指導の経験を持つ教員がその実務経験を指導にいかし、様々な受精卵移植技術に関する基礎的かつ重要な技術の習得を目的とする。	2 年 前 後 期	45	1						○	○				○
45	○		農業生産・機械実習1	専門科目で修得する知識を発展させる実習科目でもある。主に酪農業の各種作業の体験を通じて、酪農業の仕組み・技術についての基礎修得に必要な実習を行う。下記に挙げるテーマ他を天候・時期などにあわせ、家族型経営実習（鯉淵ゾーン）で行う。	1 年 前 後 期	180	4						○	○				○
46	○		農業生産・機械実習2	1年次に引き続き、専門科目で修得する知識を発展させる実習科目でもある。主に酪農業の各種作業の体験を通じて、酪農業の仕組み・技術についての基礎修得に必要な実習を行う。下記に挙げるテーマ他を天候・時期などにあわせ、家族型経営実習（鯉淵ゾーン）、企業型経営実習（瑞穂ゾーン）で行う。	2 年 前 後 期	180	4						○	○				○

47	○		農場管理実習	実際の畜産現場同様、早朝など管理実習に入ること、通常の実習とは異なる現場実習を行う。農場教員が日々行っている実習に向けた準備ともなる作業を行う。当番参加期間中は、早朝当番後に通常の講義・実習・実験などに参加となるため、気力・体力の維持・確保・ペース配分なども学ぶ。	1 年前 後期	90	2				○	○	○			
48	○		集中実習	主に夏期長期休業期間中に実施することで、自らの熱中症など暑熱対策を心掛けると共に、同じ環境下にある果樹、野菜、花卉、作物といった植物や、乳牛、肉牛などの動物の暑熱ストレス軽減が、それらの良好な生育に重要であることを体験する期間とする。	1 年前 後期	90	2				○	○	○			
49	○		農業経営体派遣実習	農業経営体等における20日間の実習を通じて農業生産・流通の現場を理解する。	2 年前 後期	180	4				○	○	○			
50	○		特別実習	農業生産・機械実習や、農畜産物加工実習といった他の実習の範囲内で履修し得ない技術習得を目指す。下記は、過去の実習を例示した物である。実習コマ数は、内容により異なる。	1 年前 後期	90	2				○	○	○			
51	○		A I 講習	家畜人工授精師(牛)資格取得に必要な知識と理論、技能的習熟度合いをそれぞれ試験により評価し、定めた基準を合格した者へ講習修了書を発行する。この講習会は茨城県、茨城県畜産センター、本学によりそれぞれ担当科目を分担し開催をする。開催期間は5日間とする。	2 年前 期	45	1				○	○	○			
52	○		E T 講習	家畜受精卵移植師資格取得に必要な知識と理論、技能的習熟度合いをそれぞれ試験により評価し、定めた基準を合格した者へ講習修了書を発行する。この講習会は茨城県、茨城県畜産センター、本学によりそれぞれ担当科目を分担し開催をする。開催期間は10日間とする。	2 年 後期	90	2				○	○	○			
53	○		プロジェクト学習1	無理のない計画を組むために、必要なスキルの習得を目指す。	1 年前 後期	60	2				○	○	○			
54	○		プロジェクト学習2	1年後期時に計画したプロジェクトについて実行し、結果についてまとめあげ発表に至ること。	2 年前 後期	120	4				○	○	○			
55	○		特別講座 1	時勢に合わせた講師を招聘し、特別講演・講義を行うことで、講義・実習のはざま、谷間となりやすい知識や見識の修得を目指す。講演者、内容は都度掲示等するため、下記は過去の講演を例示したものである。講演内容によって時間数が異なる場合がある。	1 年前 後期	30	2	○				○		○		
56	○		特別講座 2	1年生との合同開催を主体とし、他の講義・実習のはざま、谷間となりやすい知識や見識の修得を目指すと共に、2年生特別講座として就職に直結する内容でも開講する。	2 年前 後期	30	2	○				○		○		
合計				56科目	2655単位時間(113単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	必修科目2475単位時間の全て、選択必修科目から60単位時間、及び履修した自由選択科目で5段階評価を受け、不合格科目が無いこと	1学年の学期区分
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。